

平成29年1月第1回

大野市教育委員会臨時会

会議録

日 時：平成29年1月5日（木）午後3時00分～5時05分

場 所：大野市役所 大会議室

大野市教育委員会 1月臨時会

平成29年1月5日(木)

午後3時～大会議室

1. 開 会

会議録署名人 清水委員 関 委員

2. 議 事

議案第1号 文化会館整備基本計画策定業務プロポーザル審査委員会委員の選任について

3. 付議事項

1) 大野市小中学校再編計画(案)パブリックコメントについて 資料1

4. その他

5. 閉 会

<出席者>

	委員長	洞 口 幸 夫
	職務代理者	清 水 美 那 子
	委 員	山 川 秀
	委 員	關 園 子
	委 員	松 田 公 二
事務局（説明者）	教育長（再掲）	松 田 公 二
	事務局長	小川 市右エ門
	教育総務教育総務課長	木戸口 正 和
	審議監	道 鎮 栄 一
	生涯学習教育総務課長	中 村 吉 孝
	〃 文化財保護室長	中 村 りえ子
	〃 スポーツ振興室長	砂 子 淳 一
（書 記）	教育総務課課長補佐	山 田 靖 子
（書記補佐）	〃 企画主査	安 井 妙 子

<傍聴者>

11名

【大野市教育理念の唱和】

【開会・点呼】

【委員長】改めまして新年のごあいさつを申し上げます。

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

雪どころ大野に積雪無し、今年もスキー場泣かせの新年を迎えました。子どもたちがスキーや雪遊びを楽しみにしていた冬休みもこのまま終わってしまいそうですが、3学期はどの学校でもスキー学習が計画されていますので、何とか予定どおり行うことができますように祈りたいものです。

本日は新年早々ですが臨時教育委員会を開かせていただきました。皆様方にはお元気でご出席いただき誠に苦労さまです。

ご承知のとおり1月は大野市小中学校再編計画の策定という大変重い課題を担った月間です。

そして本日は、昨年実施した大野市小中学校再編計画（案）に対するパブリックコメントの回答について協議していただくためにお集まりいただきました。慎重に審議を進めていきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見等を多数いただきますようよろしくお願いいたします。

【会議録署名人】

【委員長】本日の会議録署名人は、清水委員さん、關委員さんのお二人にお願いすることにします。

【付議事項】

【委員長】議案第1号については、人事に関係しますので、付議事項（1）の後にさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

では、3番目の付議事項に入ります。一番目、大野市小中学校再編計画（案）のパブリックコメントについて、議題とします。事務局の説明をお願いします。

【教育総務課長補佐】

——<パブリックコメント手続きの実施結果、質問及び教育委員会の考え方（1【教育理念に基づく教育】、2【基本となる考え方】）について説明>——

【委員長】ただ今、教育理念に基づく教育と基本となる考え方についてのパブリックコメントの回答について説明をいただきました。

皆さん方から、これに対しての意見がございましたらお願いします。

私から1点。格差づくりであって、教育基本法の人格の完成の精神に反するというコメントに対する回答の中で、「変化と競争の激しい社会を真に生き抜くために、子どもは子どもから教わるのが最も多い、より多くの多様な個性と個性によって磨きあい高めあう人間力を育てる教育を第一義としたいと考えております」というのは、私はそのとおりだと思います。

ただし、その中で「生き抜く力」というのは非常に力強い表現なんですね。ところがこれに対する反発も結構あるようなので、もう少し柔らかい回答と言いますか、「生きていくため」とか「生きていく力を育てる」というような言葉も考えられるかと思いません。

【教育総務課長補佐】 はい、ありがとうございます。次の説明をします。

——〈質問及び教育委員会の考え方（3【適正規模】）について説明〉——

【委員長】 適正規模のコメントについて説明がありましたが、これに対してご意見がありましたらお願いします。

【關委員】 何処というのはよく分かりませんが、小規模校とか町の学校というのではなく大野市全ての子どもたちが平等に同じような教育が受けられるようにしていただくとうれしいと思います。

複式教育というのも確かにいいんですけども、やはり村部だとかこういうことを我慢しなければならないとか、町のほうがバスとかいろいろあっていいとかあるので、大野市全ての子どもが平等に同じような教育が受けられるという形がいいと思います。

1 ページの一番下あたりに「子ども1人あたりの先生と接する機会が多いから少人数」と書いてあるんですけども、必ずしも少人数がいいとは言えず、やはり少ないと、性格がうまく合えばいいですが、そうでない場合、子どもの逃げ場所が少なかったりするので、人間関係が固定化しやすくなるということですが、どういう表現にするのか分からないですが、そういうこともあると思います。

すみません。分かりますか。

【山川委員】 今の意見、よく分かります。加えて、国が定めた学級の定数とか県の方針があると思いますので、やはり国や県のルールに沿ってこういう計画というのは進めるのが適正だろうと思います。

【委員長】 私自身、小学校時代は複式学級で育ちました。教員になってからも複式学級、或いは複々式学級でトータル的には8年か9年やらせていただきました。

ですから複式学級は決して悪いとは言いませんし、複式学級の良さもちゃんとわかっています。ただし、私は多人数の中での教育を受ける場面はなかったんですね。そういう面では私の子どもの頃を思うと、大人数の学校は羨ましいと感じたことはあります。

教育の平等性と言われましたが、そういうことも大事なことでと思います。

【審議監】複式学級のことについての回答に、指導の困難性について書いています。具体的にどういうことかという、一人の先生が2つの学年を指導するわけですから、1時限45分のうち、単純に計算すれば1学年22、3分ずつしか付いてやれないということになります。あとは教材の準備とか授業後の指導とかで負担がかかります。大した金額にはなりませんけれども複式学級を担当して週に既定の時間を担当する教員には、多学年手当として給与とは別に手当が付きます。

これはやはり国、県が複式学級の授業が通常学級よりも困難性があるから手当を付けているものですので、ここにはちょっと書けませんけれども、このことも委員さん方にはぜひ知っておいていただきたいと思います。

【委員長】そういう点も理解していただきたいということですね。

【教育長】委員長が複式学級で育ったとおっしゃいましたが、私もそうです。でも私たちの時代は複式学級は私の学年で17人、上の学年で19人ですので、複式にしますと36人学級、また下の学年は14人ですので31人で学習をしてきました。そういう意味でいろんな良い面と悪い面があり、ある意味では悪い面をカバーできたような人数の複式学級で学ばせていただきました。

もう一つ、さっきのことに戻るのですが、私たちはずっと「生き抜く」という力強い言葉を使ってきました。どちらかという他人を押しつけてでも行くぞ、勝利主義という感覚で捉えられて反発されているように感じた時もございます。

ですが、私は生き抜くという意味は、自己存在感、或いは自己有用感、こういったものを自分自身が感じ取って生きていく、これが「生き抜く」という意味合いなのだということをご理解いただくとありがたいと思っております。

【委員長】それでは、次をお願いします。

【教育総務課長補佐】

——<質問及び教育委員会の考え方（4【再編後の学校数】、5【教育ビジョン①】）について説明>——

【教育総務課長補佐】「伝統芸能の継承は絶対に無理」という強いご意見があったんですが、今のまま残すことはなかなか難しいのかなと、かえって再編することによってできることなのかなということ議論をまとめさせていただいたのですが、いかがお考えでしょうか。

【委員長】2頁から3頁に亘っておりますが、この中でご意見がありましたらお願いします。

【清水委員】蕨生の里神楽にしても、子どもの数が少なくなってきた、今は富田小学校で取り組んでいますが、里神楽に熟知した先生が転任してしまうと、後が不安だということもお聞きしていますので、やはり地域と連携して残していくのは大事だと思います。

特に富田小学校だけというわけではないですが、森目小学校と蕨生小学校が富田小学校に入って、今度は富田小学校としていろんなことが伝承していければ、私としてはありがたいと思います。

私が一番心配しているのは、和泉地区の小学校の子どもさんの移動ということなんです。

やっぱり小学校低学年の子どもさんが体力的に大丈夫なのかというのを、今のところ一番心配しております。

【委員長】 その件については、後ほど「スクールバス」のところで取り上げてまいりたいと思います。

私から少し。和泉小中学校を残すというところの横の欄に、ずっとまとめて書いてありますね。それは和泉小中学校を残す項目ではなくて、「地域の方々のふれあいや交流はとても大切と考えており再編後もこれらの活動を継続して取り組んでまいります」と書いてありますが、その前に、「再編協議会の中でも十分考えて、再編後もこれらの活動を継続して取り組む」という言葉を少し入れてもいいのではないかと思いますので、また検討してみてください。

もう一点、そのように考えてみますと、ふるさと文化の継承についてですけれども、学校でもやっていますけれども、公民館とタイアップしてということもどこかに書いてありましたので、公民館の行事ということは地域の方々の協力ができないものですので、その辺を十分押さえながら、公民館とタイアップしながらふるさと教育を進めていくということを書いていただければありがたいと思います。

次、お願いします。

【教育総務課長補佐】

—〈質問及び教育委員会の考え方（5【教育ビジョン②、③、④】）について説明〉—

【委員長】 はい、ありがとうございました。ここで、何かご質問はありますか。

【關委員】 5の教育ビジョンのところですか。今、学校にはいろんな支援員さんが入っていますよね。人数が多いからとか、なかなか自分の意見が言えないとか、いろんな不安が書かれています。複数の教職員の目できめ細やかにという部分に支援員さんが入ってくださっているということも付け加えたらどうでしょうか。

やはりたくさん目の目がいくつもあるという方が保護者としては嬉しいです。

【教育総務課長補佐】 どこかで書いてあるかと思うのですが。

大野市はほかの市町に比べて人口規模に対して支援員さんを非常に多く入れていただいているので、再編されてもその数は維持したいと考えています。

【關委員】 はい、そうお聞きしているのです。目で見て分かるように書いてあった方がいいと思います。

【教育総務課長補佐】何回も推敲しているのですが、書いたつもりでいても消えているかもしれないので、確認してそのようにさせていただきたいと思います。

【教育総務課長補佐】

—〈質問及び教育委員会の考え方（5【教育ビジョン⑤、⑦、⑧】）について説明〉—

【委員長】何項目にもわたっておりましたが、皆さんの方からご意見がありましたらお願いします。

【教育総務課長補佐】先ほどの支援員さんの件についても、ここに「継続して配置」と書いてあると思います。

【委員長】先ほどの清水委員さんの、和泉の子どもたちのことについてもお話がありましたね。具体的には、和泉から通う場合、どれくらいの時間を想定しているんですか。

【教育総務課長補佐】乗っている時間は40分くらいと考えております。

【委員長】そうすると、先ほど、文科省では「通うのに1時間以内」というのがありましたね。

【教育総務課長補佐】このところに、40分程度という数字を書こうかどうか検討したんですが、文科省の基準ではどのように書いてあるかも示すべきであろうということでこのようにしました。しかし、現実には乗車時間を40分程度にしたいという思いでおります。

村部では現在50分かけて歩いているという話も聞きました。そういう子どもたちにとっては、バスを利用した方がずいぶん早くなると思いますし、また国道沿いなどでは、除雪した雪を避けながら低学年の児童が50分もかけて歩いているという話を聞きますと、今現在、必ずしも短時間で通えている子どもばかりではないと思います。

【清水委員】高学年になるとそうでもないかもしれませんが、低学年で40分と言っても、学校の始まる時間は一緒なので、その前に起きて用意をしないといけないし、朝食を取ってとなると小学校低学年ではちょっと心配だなと思います。

【教育長】今、最も遠い和泉地区の上大納から和泉小中学校に通っている子どもが3人おります。その子どもたちが、上大納をバスが出発する時間が7時02分なんです。それに間に合わせるようにして、朝、家を出て停留場まで来て和泉小中学校に行く、それをそのまま7時02分に出て大野に来るとするのは十分、朝の活動、或いは始業時刻には間に合う状態でスクールバスを利用して学校へ登校できるという状態になります。ですから、朝早くということは、これまでとあまり変わらないということです。

ただ、今、言われるように、40分の時間をストレスを感じないように、体力が消耗しないように、朝学校に着いたら少し軽運動をすとか、頭の体操をすとかしながら、少し時間の余裕をもって学習が始められるような形を学校で作ってあげなければいけないと考えております。

【**關委員**】この間、確か大飯町の教育委員さんとお会いして、そこもスクールバスを使っているらしいのですが、子どもたちは全員、学校の1 Km 手前で降ろされるのだそうです。最初はなぜそんなに手前で降ろされるのと思ったらしいのですが、1 Km は歩けというふうにされているそうです。

それを聞いて、いろいろなところでそんなふうを考えているんだなど、大野の場合、例えば高学年だけそうするとか、再編推進協議会でより良い方法を考えていただけるといいのかなと思いました。

【**委員長**】それは体力づくりのためにそうしているんですね。

【**關委員**】そのようです。保護者や祖父母が、今まで歩いて通学していたのに、体力が衰えるということで、そういうことを取り入れたのかなと思いながら聞いていました。

【**委員長**】低学年の話が出ましたが、最近は保育園とか幼稚園で教育を受けている期間が非常に長くなってきていて体力が付いているという感じがありまして、過去に比べるとあまり低学年だからという心配はないのかなと思います。

【**教育総務課長補佐**】

——<質問及び教育委員会の考え方（6【再編時期】、7【新築】、8【経費】、9【建設候補地】）について説明>——

【**委員長**】ただ今の説明に対して、ご意見等ありましたらお願いします。

【**山川委員**】6 ページの新築に関してです。2 3 番のご意見に対する回答の右の方ですけども、要するに長寿命化工事と耐震補強工事の違いがよく分かっていないのですかね。そこがはっきりしないとゴチャゴチャになってしまうので、回答を書き換えたほうが良いという気がします。

「耐震補強工事は地震等の自然災害で建物が瞬時に倒壊することを防ぐためのものであって、建物の寿命を延ばすためのものではありません」とした方が分かりやすいのではないですか。建物そのものは時間とともに経年劣化をしていきますということですね。

それと長寿命化改修とは違うということを書いておいた方が分かりやすいので、一度検討していただけたらと思います。

【**教育総務課長補佐**】はい、ありがとうございます。

【**委員長**】ほかにありませんか。

では、次の説明をお願いします。

【**教育総務課長補佐**】

——<質問及び教育委員会の考え方（10【跡地活用】、11【人口減少問題】、12【再編の進め方①、②、③】）について説明>——

【**委員長**】今ほどの再編推進協議会というのを本当に分かっていらっしゃらない方が多いのかなと思います。これからの編成ですので、特に分かりやすく書いていただけれ

ばと思います。また、基本構想のような内容もかなりあったと思いますが、これも29年度に基本構想策定委員会が結成されるということで、そのときに考える問題であるということもきちんと記載してほしいと思います。

【教育総務課長補佐】

——〈質問及び教育委員会の考え方（13【計画策定】）について説明〉——

【委員長】 以上で説明は全て終わりましたので、ただ今の説明についてご意見等ありましたらお願いします。

この会議は5時には終了したいと思いますので、よろしくお願いします。

何かございませんか。

【教育総務課長補佐】 全体としてなのですが一つの質問ではなくて、いくつかの質問が混ざったような質問になっているので、なるべく回答が重複しないようにまとめたりしています。

他の市町のパブリックコメントの情報公開を見てみますと、もっとざっくりと、例えば「再編の時期について」とか、「新築することについて」というふうにまとめて回答しているケースが多いのですが、今回はいただいた128枚のご意見を265項目に分けて、一つ一つの質問をなるべく忠実に書いて、幾つかよく似た答えを合わせていますが、一つ一つの質問について回答していくという形で提案させていただいております。その辺はいかがでしょうか。

【委員長】 かなりダブっていますね。

【教育総務課長補佐】 はい、ダブっていたり、分類に悩んだりしています。

【委員長】 確かに適正規模という言葉は相当数使われていますね。それぞれの質問をみて回答しないと、パブリックコメントを出された方にも納得していただかないといけないので、やむを得ないかなと思います。

【教育総務課長補佐】 地域が寂れることについては50件の意見がありますが、50件をまとめて、それに対して回答が一つというよりも、質問をずらりと並べて、「これが私の出したコメントだ」と分かる方がいいと思って、このようにさせていただきました。

【委員長】 「住民投票をするべき」とありまして、「教育委員会の所管ではない」という回答を書いています。まさにそのとおりで、非常に複雑に絡んでいるので住民投票で決するような単純な内容ではないと思います。

【教育総務課長補佐】 反対という人の割合の方が多いのかもしれませんが、反対と言っても「再編は仕方ないけれども学校数が反対」とか、「時期が反対」とか反対の設定にもいろいろありますので、全てが反対、全てが賛成の人の数を読むことは難しいと思います。

【委員長】 ここにも「再編致し方ない」と賛成の方でも意見を書いていますので、それはそのとおりだと思います。

【關委員】 ずいぶん前にも言ったんですが、パブリックコメントは慣れている方は別ですが、小さいお子さんをもつ親御さんなども書かれているようなので、個別に回答することで気持ちが伝わるような気がします。

専門的な用語があるとやはり固く感じたり、きつく感じたりするので、そこは補足・解説してくださるといいと思います。

【山川委員】 全体的にパブリックコメントを出していただいた一人一人に対して親切に答えているという内容になっていると思います。

しかも内容もよく分類しまして、共通しているところをまとめながら細かく回答されていて、非常に大変だったろうと思いますが、よくできていると思います。

【清水委員】 これはこの後、どういう形で報告することになるのですか。

【教育総務課長】 今日、ご意見をいただいて、そのご意見を反映し、並べ替えなど事務的なことをします。この回答を計画に反映していくことですので、計画の策定と合わせてできたものを議案として承認いただけたらと思います。

その後にホームページで公開していきたいと考えております。

【委員長】 今日の会議を経て、次の教育委員会でもう1回修正したものが出されるということですね。

【教育総務課長】 はい。承認をいただけたらと思います。

【清水委員】 意見提出者を見ますと、持参が36件とありますけれども、ホームページを見られない方もあるかと思うのですが。

【教育総務課長補佐】 計画も一緒ですが、公民館に置いたりして、なるべく多くの皆さんに見ていただけるような工夫はしていきたいと思いますが、その方法はまた教育委員会で報告させていただきたいと思います。

【委員長】 確かに全体的にこのパブリックコメントにつきましては、項目ごとによく内容を吟味してまとめていて、抽象的な言葉も多いですが、項目の中に具体性を持たせるにはなかなか難しいと思うんです。数字をあげてどうこうというのは難しいと思いますので、これはやむを得ないと思います。そういう中でも非常に丁寧にまとめられている、回答も親切であると認めますし、皆さんも同様でないかと思います。

これ12ページを読むだけでも大変でした。

これから修正にも時間を要するでしょうから、事務局のご苦勞に対しまして非常に感謝申し上げながらパブリックコメントの回答として市民が納得いくように努力していただきたいと思います。

以上で本日のパブリックコメントについてはもう1回ございますが、今日のところは、これで閉めてよろしいですか。

【山川委員】この次、また臨時教育委員会が開かれるということですね。慎重に検討した方がいいと思いますので、ぜひともそのような形でお願いしたいと思います。

【委員長】では、次回はとりまとめたもので慎重に進めようということですので、本日、この件については終わらせていただきます。

その他、何かありますか。

【事務局長】今ほどありましたように、パブリックコメントについての審議の後に、パブリックコメントでお聞きしたことについて計画に反映するための会議を開催することになりますが、次回の日程を決めさせていただきたいのですが。

【委員長】また私と事務局で相談して、皆さんにお知らせするというのでどうですか。

【教育総務課長】事務局として考えておりますのは、12日の2時、場所は結とびあの303号室ですが、ご協議願います。

【委員長】皆さん、どうですか。

——<異議なし>——

【委員長】では次回の臨時会は12日の午後2時からということで、よろしく願います。

あともう1項目議案が残っておりますけれども、これは人事案件ですので、傍聴者の方にはここでご退席願います。

——<傍聴者退席>——

【議 事】

【委員長】では、再開します。

議事、議案第1号 大野市文化会館整備基本計画策定業務プロポーザル審査委員会委員の選任についてを議題とします。

事務局の説明をお願いします。

——<教育総務課長 説明>——

【委員長】ただ今、プロポーザル審査委員に5名の方の提案がございました。何か質問はありますか。

【清水委員】建築設計事務所の方ですけれども、これは大野市の設計組合のようなものがあって、そこの代表理事ということですか。

【教育総務課長】奥越前建築設計監理協会というのは、大野と勝山の業者、全部ではないのですが、その業者で協同組合を作っていて、代表理事は代表なんですが推薦をお願いします、委員の推薦をいただいております。

朝日俊雄産経建設部長ですが、名簿は「産業建設部長」となっていますので「産経建設部長」に修正願います。

【委員長】よろしいですかね。特に質問がなければ採決してよろしいですか。

——<異議なし>——

【委員長】それでは議案第1号 大野市文化会館整備基本計画策定業務プロポーザル審査委員会委員につきましては、承認してよろしいですか。

——<異議なし>——

議案第1号 大野市文化会館整備基本計画策定業務プロポーザル審査委員会委員につきましては、事務局から提案のありましたとおり、承認することといたします。

以上で、本日の臨時会を閉じさせていただきます。

新年早々、長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。

午後5時05分終了

平成29年2月23日

(清水委員)

(關 委員)